

禮術兩翼之卷

大
追物
部
叔

和装本

ケ5
44
36





大坪本流西翼之卷

大追物依副之部 春生軒齋藤定易撰

大名高家ノ殿原者依副六人召連一其内

第一弓墓目役第二鞭鞭第三行騰左

草第四行騰右草第五太刀討刀第六扇

子思疊紙如此之儀依副之役也

小名六第一弓墓目役第二鞭二太刀役第三

行騰二扇子疊紙也

矢取者ヲ佞副ニ用ル流モアリ馬ノ口附兩人ヲ
一人用テ佞副ノ内ニナス家モアリ本式ニ非
サル也略儀ノ抗柄ハ格別ノ事也

佞副出立ハ烏帽子素袍ニ小袴着シ股立
シ高ク取ヘシ然レ返シ股立ハ取ヘカラス
佞副心得ハ柄立料紙小鏡搦糸針止血藥
氣付藥打身藥ヲ懷中スヘシ
主人小屋一御入アラハ佞副ノ者ハ蠶目ヲ取



出シ服紗物ニテ拭ヒ弓矢ハ左鞭ハ右ト飭ル
ヘシ亦指懸ヲ鞭ニ結付置時ハ指前シ上ヘ
ナシテ指懸ノ紐ニテ鞭ノ袖摺ノ節ノ少シ
上ニ結付也

弓ニ指懸ヲ結付ル時ハ指前シ下ヘナシテ内竹
ニ添テ是モ指懸ノ紐ニテ結付ヘシ
矢取者主人ノ代香并ニ手拭懷中スヘシ亦代
矢一本宛腰ニ指スヘシ

口符者ニハ代手綱代草沓シ紙ニ包テ懷中サス
ヘシ

行騰ヲ持テ出撮裏々ヲ合セ白毛ヲ左ヘナシ左
皮ノ上ニ左手ニ下ノ毛レノ通ヲ掛テ右ニテ上ノ
毛レノ通ノ下ヘ手ヲ入拘^カユルヤウシテ持ヘシ緒ハ
行騰ノ間ヘ成ヘシ亦人ノ所望ニヨリテ御目ニ
懸ル時ハ佩時ノ如クニ置ヘシ取テ帰ル時ハ初ノ
如持ヘシ右キ射テノ云葉ニモ白毛ヲ人ノ方ヘナ

スハカラス若シ斤皮トアラハ左草ハカリ持テ出ヘ
シ右手ニテ掃髮ヲモ持テモ吉

同毛々ト合テノ白毛ヲ左ヘナシテモ持ヘシト高忠
モ云レシト也置撮ノ如シ

行騰ノ裾ト撮左草ハ右手右草ハ左手ニテ取
ヘシ手ヲ仰ケテモ俯テモ取也内ノ手懸ナトハ一
人レテモ取ヘシ其時ハ後ヨリ両手ニテ取也二
人シテ取時ハ左草ヲ取者ハ馬ニ召ル、時三頭

投越様ナルカ吉取所ハ蹴返ノ折目ノ通也
同一人シテ行騰ノ裾ヲ取時ハ後ヨリ折目ノ通少
白毛ノ方へ寄テ手ノ内ヲ仰ク様ニ取ヘキ也
棧敷亦ハ座敷扱ニテハ行騰ノ裾ヲ取テ參スカラ
ス庭ニテハ取ヘキ也

指懸シ參スル時ハ右ヲ上へ左ヲ下ニ裏ノ方ニナ
シテ紐ヲ玉輪ト左巻ニシテ出スヘシ
指懸ノ紐結給フ節神咒ナクハ佯副ノ人心ヲ附

テ吉佯副神咒ヲ添ル事モアリ
袖留シメル時佯副ノ人神咒アリメ様惡ケレハ
袖下リテ射惡キ者也

素袍ノ左袖ヲ卷テ糸ニテ縫付ヘシ佯副ノ役也
烏帽子ノ紐ハ向フヨリメヘシ佯副一人ハ烏帽
子シ後ヨリ見ハカラフヘシ
乘沓召サスル時ハ沓ハ左ヨリ佩セ右ヨリ取者
也其佩甲様ハ沓ノ限^{キビス}ノ方ノタシヒヲ引立テ

深ク仰セ申ス者也

犬初リ夕フシ時ハ小屋ニテ惣ノ墓目ヲ飭リ亦
子袋ヨリ張代ノ子ヲ取出シテ張テ置ヘシ
細杯掛ルコトアラハ小屋ニテ取ヘシ矢取墓目
シク時ハ竹垣ノ上ヨリ踞テ出スヘシ
犬適テ下馬ノ時子墓目取者ハ馬ノ尻ノ方ニ
踞ヘシ行騰ノ裾取者ハ馬手ノ方ニ踞テ主人下
乗アルトヤカテ裾ヲ取タルカ宜シキ也定法ニハ

ア子凡大概如此心得ヘシ

似副ハ矢取口附ヨリ一階上ノ役ナレ凡矢取モ申
合スヘシ外ノ似副トハ猶以テ申通シタル吉

矢取台附ト申合スヘシ流儀ニヨリテ口附ヲ矢
取ニ用ル事アリ

似副矢取ノ者功者ナレハ矢ニナルコト多シ不切
者ナレハ能矢モ捨ル事アリ勝負犬ナトニハ功
者ヲ召連ヘキ事也

倂副ハ大繩ノ内ヘ入事ナシ矢取ハ矢ニ依テ大
繩ノ内ヘ入也

犬百疋果テ御休ミアル折柄酒ナト召ス時敷
皮_ニ下貴人_ノハル、時ハ倂副ノ人敷皮ノ毛ノ
方ヲ下ヘナシテ敷ヘシ若シ敷皮ナクハ右ノ方
ノ障泥ヲ外シテ是モ毛ヲ下ヘナシテ敷ヘシ板
障泥ナラハ塗タル方ヲ上ヘナシテ敷者也口訣
檢見ノ倂副ハ繩ヲ打矢アラハ馬ノ下_{フリトコロ}所檢見

次第成レ繩ノ内ニテ下乗ナラハ倂副馬ヲ引
テ繩ノ外ヘ出テ剛際ホトニ待レ引廻シ操_ハ所
ニ依間能々分別スヘシ

檢見シ免サル、人者檢見ノ鞭ヲ其勤シナス
子ハ倂副ノ者檢見ノ鞭ヲ持テ出ヘシ惣シテ代
鞭ノ加ク檢見ノ鞭シ惣ノ墓目ニ_{タカ子}結副ル也
射手檢見ノ時十疋宛ニテ檢見代ラハ七八疋目ヨ
リ倂副ノ者繩際ヘ出ヘシ其倂副何人トハ定ラ子

共三人ハカリ然ヘシ腰指ヲ墓目鞭シ持テ出ヘシ腰
指右ニ羽ノ方ツ上ヘナシテ持ヘシ勿論矢取ノ後
ニテ拵ルナリ

射手次第々々ニ矢取ノ後ニテ下馬シテ拵ヘシ馬ニ
乗繩ハ抄寄ハ射手具足シ持テ佞副ノ者傍赤
シ出ヘシ但馬場ニ依テ矢取ノ後ニ持事モアリ
十人シテ十足宛五人シテ廿足宛ノ節モ佞副ノ心
得替ル事ナシ

射手檢見ノ時矢代ノ墓目佞副持テ出ヤウ棧
敷ノ右妻ヨリ竹塙ノ戸ヲ披キテ出ヘシ籠カゴヲ提
テ持矢代振ル人ノ右ヘ寄路ツクビテ出ス也左手ヲハ
左腰ニ着ヘシ土ツチニ着ヘカラス振間以前出タル
竹垣ノ際ニ待ヘシ振果ハナテテ取時ハ左妻ノ方ヘ
廻リ矢代ニ向路テ取ヘシ棧敷ト夫代ノ間ヲ通
ヘカラス亦矢代ノ間ヘ入テ還モトルヘカラス
繩際ニテ矢代振時ハ矢取ノ役ニテ佞副ニハ及

サルナリ

繩際へ佞副出ル事アラハ何方成共傍ル際シ
通へシ内々ニテ馬譴ル時モ此心得吉落馬時ハ
何方成凡近キ方ヨリ通へシ

落馬ノ時ハ其主別儀ナクハ常式ノ如シ自然禍
アリテ心シモ矢フホトナラハ先佞副走合テ然ハ
シテ蠶目以下佞副ノ役人其役々心ヲ掛へシ
重キ落馬ノ時ハ相手ノ佞副其役ヲ勤ムヘシ主

ノ佞副ハ佞抱ツ弟一トスヘシ

子蠶目シ持ヘキ様ハ右ニハ何シモ持へシ蠶目ヲ
外竹ノ方ニ添テ持タルカ宜シキ也勿論子ノ未
殆シ空ヘナレテ持へシ本式也亦提テ太カシ
持ヤウニモ持也ツクホフ躡時エニ本殆シ着ルハ悪シ
中ニ持へシ有餘アレハ右ノ膝ニ本殆ヲ持ス
ル事故實也躡時ハ右ノ膝ヲ突者也
同馬上ヘ子蠶目ヲ渡スヘキ事馬ノ左ヘ

ヨリテ出シ様ニ左手ヲ副左ニテ握一尺四五
寸分カリ上ヲ持右ヨテハ握ノ下ヲ持両手ナ
カラ仰ケテ出スヘシ出ス時蠶目シテヨリ
此方ヘナシ箸ノ方ヲヨリ向ヘ成ヤウニ出
シタルカ馬上ヨリ取能者也扱退サレニ上
下ノ袖シ弦ノ間ヘ引入ル也向レモ故實也
能々依副ノ人心得ヘシ
ヨリ蠶目ヲ出ス時若シ馬ヨリ手ノ方ヘ寄スレ

ハ馬手ヨリ出スヘシ常ノ如ク持テ寄馬手ノ
方ニテ左ヘ取直シ右手ニテ握ヨリ一尺五六寸
上シ持テ左手ヲ放シテ馬ノ右ニ副テ手
ヲ仰ケテ平首ヲ越テ斤手ニテ出スヘキ
ナリ是ハ故實ノ出シヤウ也内々ニテ馬ナト
譴ル時繩ニ扣ナカラヨリ蠶目乞事アラハ繩
ノ内ヘ踏込テ常ノ如ク出スヘシ勿論馬ノ
後ヨリ参スヘシ其ヨリ様子ニ依テ見計ヒ

テ馬手ヨリ出ス事モ有ヘキ也
張代ノ弓ヲ馬上ヘ參スル時弓手ノ方ヘ寄弓
蠶目出ス時ノ如ク持テ出馬上ニ持シメ給
フ弓ノ上ヘ參スヘシ扱左手ニテ持右ニテハ今
一張ノ弓ヲ取ヘシ握ノ下ヲ持ヘキ也自然ニ取
副タル蠶目シ馬ヨリ落シ給タラハ弓ニ取
副テ出スヘシ出シ様ハ弓ノカリノ時ノ如シ亦
馬ヨリ下シ給タル弓ヲハ取踞一礼シテ歸ル也

弦切タル弓ハ必ス反ル弓ノ如ク也然共張弓
ノ如ク持ヘシ勿論右手ニ持者也弦ノ切アス
左手ニ卷テ歸ルヘシ亦折タル弓モ大方此心
得成ヘシ略儀ノ犬ノ時ハ切タル弦ヲ河原者
ナトニ取セテモ吉若シ弦ノ切シ見サルトアラハ
似副ノ者取テ歸ス凡若シカラサル也
腰指ハ三ツ腰ニ指ヘシ一ツハ惣ノ蠶目ニ束子副也
自然落馬杯ノ用心ニ別ニ一腰惣ノ蠶目ニ束

副テ持ヘシ是モ伎副ノ心得也

籠手ノ時ニ後シ糸ニテ閉ル其自然糸ノ切ル

コトアリ其用心ニ伎副糸針シ持タルカ吉

鞭シ取代ル事アリ右ニ提テ持馬ノ右ニ寄

テ出シ鞭シ左ニテ取テ右ニテ代ノ鞭シ出

スヘシ扱左ニ持タル鞭シ右ニ取直シ張テ

帰ルヘシ

鞭シ出ス時ニ惣シテ取柄ノ下シナニトナキ様

ニ提テ出ス時ハ左ニテ手緬ノ七オシ取テ左ノ

袖ノ下ヨリ馬ノ湯髪際ニ出スヘシ

鞭シ馬上ヨリ請取時ハ向ヨリ請取テ鞭シ下

テ馬ニ見セサルヤウニナシ右ノ足ヲ開テ退也

馬ニ懸リタル籠ヲ貴人御覽アルヘキトノ時ハ

右籠ハカリ外シ舌崎シ両手ニ持テ出先鳩胸ッ

御目ニ懸籠ヲ然リ貴人ノ右ノ方ニ置ヘシ勿論

ニテテ籠共ニ替ルナシ取テ帰ル時ハ舌崎シ取

搦り直シテ西手ニテ持テ退也亦鎧ノ追取ヲ右
ニテ持左ノ柳葉ノ下ヘソト付テ持テ出御目、
懸ルコトモ吉

馬場ニテノ配膳ハ伎副ノ役也貴人ノ膳ヲ持
テ出馬ノ右ニ立テ其左右シ待ヘシ御膳ヲ
召ル間ハ張也勿論馬ノ後ヨリ通ヘシ股立ヲ
高ク取テ物ヲ仰ヘカラス繩降ニテ看出至同前也
惣ノ配膳ハ貴人ノ膳ヲ格トスヘシ此時モ貴人ノ

馬ノ後ヨリ通ヘシ膳ヲ居テハ杖敷ヘ歸リ上ル
時亦馬場へ出ヘシ手長ノ人者馬場末ニ待也
鉦子ニ盃ヲ居テ出ス者也貴人ノ御前ニテハ必ス
加工ヘシ惣ノ前ニテハ酒ヲ盃へ入ル時ニ立テ扱踞
テ亦立テ酒ヲ入ル者也踞様ハ軍陣ノ酌ノ如ク
ナルヘシ
提モ伎副タルヘシ貴人ノ御前ニテ加工ヘシ其外
ハ鉦子次第成ヘシ酒ナクハ代ノ提ヲ取ヘ遠

キ馬場ナトニテハ代人提シ別人持テ待ヘシ
御者モ佞副持テ出ヘシ折敷ニ五種ノ肴ヲ
居ヲ貴人ノ御前ニテハ下ニ置ヘカラス外ニ
人出テ挾テ参スヘシ老人共肴ヲ下ニ置テ盃
ヲ取時肴ヲ挾テ遣スヘシ
配膳鉦子提何レモ物際ヲ通ヘシ但通所馬場
ニ依ヘシ
佞副小屋ニ歸リテハ其日矢業矢論接見ノ勝

負分ヲ書留加ヘトスル者也
小屋ヲ急キ引拂事悪シキ也佞副ノ人其役々ノ
物ヲ取仕廻テ引取行例ノ場冥ニ至ルヘシ

當流宗師
日本武尊神
鹿嶋流
貞純親王
八幡太郎
義家

六條判官 為義

湯山入道中原 玄性

大坪式部太輔 廣秀

村上加賀守 永幸

齋藤備前守 国忠

齋藤安藝守 好玄

齋藤備後守 其忠玄

齋藤齋宮頭 辰遠

大坪流

丹列住僧了慶坊

齋藤求馬 辰光

齋藤主稅 定易

大坪本流

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

